

令和8年度福智町農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、福岡県の中央部より北東に位置し、全耕地面積に占める水田の割合が90%で、基盤整備率が70%と整備が進んでおり、土地利用型農業の生産性向上等をより一層進めていく必要がある。

また、農家の高齢化が進み、農家戸数の減少がみられるとともに、それに伴う不作付地の拡大が懸念され、今後の水稻作付面積の維持が課題となっている。

特に大豆については、病害虫などによる単収の低下を招いており、改善が必要になっている。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

米の需要に応じた計画的な生産を行うとともに、地域のブランド米「ふくち米」として農産物直売所で販売を行うことで、生産者の収益性向上を図る。

また、福智町にしかない風土と特産品などの魅力をPRする地域ブランドである「福智ブランド」は、福智町産の黒大豆やイチジクなどを使った福智リッチジェラートを展開している。さらに、令和7年度から天郷醸造所が開業したことにより酒米の作付がはじまり、地元のレモンやあまおうなどをフレーバーにしたクラフト酒を展開している。

その他に特産品などを含め今後、町や地場産業との連携を行うことで、6次産業化の推進やさらなる地域ブランド化の取組を行い、生産者の所得安定を目指す。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

水田として有効利用を図るため、担い手への農地集積を図っており、今後も担い手への集積を進めていく。あわせて、園芸品目への新規就農もあることから、地域の担い手として育成を行い、さらなる集積を行う。

また、生産者から提出される営農計画書や現地確認に基づき、生産者の意向を確認し、施設野菜や果樹等の作付が定着している水田については、畑地化の推進を行う。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

主食用水稻については、水稻の栽培単位面積が小さく、自家消費用の農家が中心であることから、産地化は難しいが、需要に応じた生産を行うため、今後も農業者に協力を求めていく。

栽培については、優良品種の導入や適正な肥培管理など、栽培技術の徹底を図るとともに、有機物等の施用による土作りなど、環境保全型の生産を促進する。

また、地域の話し合い活動を通じて、基盤整備された水田や保全管理水田の有効活用を促進し、生産コストの低減を図るため担い手への農作業受託を推進する。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米に需要減が見込まれる中、転作作物の一つとして、飼料用米を位置づけ

生産拡大を図る。

イ WCS 用稲

水田で生産された WCS 用稲供給を受けた家畜（食用の牛）由来の対比を WCS 用稲の作付け水田に施用する耕畜連携（資源循環）の取り組みを進め、低コスト化を図り、継続できる関係を進めていく。

ウ 加工用米

需要に応じた生産に即応するための補助的なものとして取り組む。

（３）麦、大豆、

水田における麦・大豆等の本格的な定着化・生産拡大と品質向上により、安定した水田農業経営を図るため、需要者のニーズに応じた生産・販売計画の策定、麦・大豆等の生産技術の一層の向上、ブロックローテーションによる団地化、担い手への土地利用集積、地域の合意形成に向けた推進体制と各地域の推進組織の育成・強化等に取り組む。

なお、大豆・麦については、産地交付金を活用し、担い手による作付を推進するしているが、天候の影響等による品質や生産性の低下対策として、ほ場における排水対策を徹底するなど基本技術の励行により、品質の向上と収量の安定化を図る。

大豆については主食用米の転換作物として耕作が行われており、排水対策の取り組みとあわせ、適期播種技術である「部分浅耕一工程播種」を行うことで、播種後の湿害・乾燥害を軽減し単収向上・作業の省力化を図っている。

麦（基幹・二毛作）については、冬の基幹作物と位置づけ、水田のフル活用による担い手への所得向上に取り組む。

（４）高収益作物

野菜・花きなど高収益作物の耕作者が微増したが収量安定や継続等、新規に取り組んでいる農家がいるための更なる所得安定・農業者定着を目指す。

5 作物ごとの作付予定面積等	～	8 産地交付金の活用方法の明細
----------------	---	-----------------

別紙のとおり

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和9年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	385.9	—	413.8	—	399.1	—
飼料用米	1.3	—	4.8	—	5.0	—
WCS用稲	0.8	—	0.8	—	0.9	—
加工用米	0.0	—	1.3	—	1.3	—
麦	426.7	398.6	440.0	437.0	448.0	438.0
大豆	269.9	—	318.9	—	318.9	—
高収益作物	8.2	—	11.6	—	11.6	—
・ 野菜	4.7	—	8.2	—	8.2	—
・ 花き・花木	1.9	—	1.9	—	2.0	—
・ 果樹	1.7	—	1.7	—	1.7	—
畑地化	0.0	—	0.0	—	0.0	—

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	大豆	大豆（担い手）加算 （基幹）	交付対象面積（ha）	（R7年度）269.9ha	（R8年度）296ha
			収量向上（kg/10a）	（R7年度）67.7kg/10a	（R8年度）100.0kg/10a
2	麦	麦（担い手）加算 （二毛作）	交付対象面積（ha）	（R7年度）398.6ha	（R8年度）437ha
			二毛作作付率（％）	（R7年度）54.98％	（R8年度）60.27％
3	飼料用米・WCS用稲	飼料用米・WCS用稲（担い手）加算 資源循環（耕畜連携）	交付対象面積（ha）	（R7年度）0.8ha	（R8年度）5.0ha
4	野菜・花き	野菜・花き助成（基幹）	交付対象面積（ha）	（R7年度）6.6ha	（R8年度）10.0ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:福岡県

協議会名:福智町農業再生協議会

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取 組 要 件 等 ※4
1	大豆(担い手)加算(基幹)	1	5,000	大豆	大豆作付圃場の排水対策(サブソイラーを用いた弾丸暗渠)を実施していること
2	麦(担い手)加算(二毛作)	2	5,000	麦	水稲および大豆の裏作物として作付けされた麦で、農協との出荷契約または実需者との販売契約を締結していること
3	飼料用米・WCS用稲(担い手)加算 資源循環(耕畜連携)	3	13,000	飼料用米・WCS用稲	水田で生産された飼料用米・WCS用稲の供給を受けた家畜の排せつ物由来の堆肥を散布した水田に飼料用米・WCS用稲を作付すること
4	野菜・花き助成(基幹)	1	20,000	野菜・花き(「別表」に掲げる作物)	販売を目的に野菜・花き(基幹)を作付する農業者であること

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。